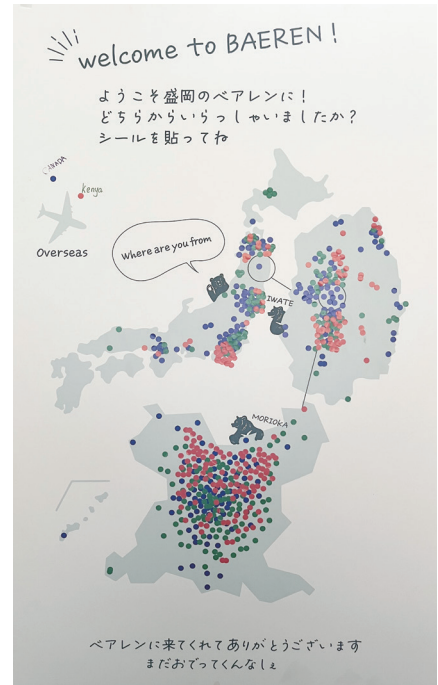


飲酒は20歳になってから。



私たちは、ヨーロッパの伝統的なビール文化を尊重し、手づくりの本格ビールを通して、ビールにも選ぶ楽しみを提案します。食卓がもっと豊かに、ハッピーなものになるよう、地元岩手よりビール文化を発信していきます。

ベアレン醸造所スタッフ一同



ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました！

## 人が集まるブランドへ

眞田 洋一 | 代表取締役社長

先日、4年ぶりのフル開催でオクトバーフェストNベアレンが開催されました。3連休の間、毎日多くの方々にお越しいただき大変盛り上がりしました。こういった光景を見るとビールっていいなとあらためて思います。イベントの件は中面の記事も参照ください。今回初めての試みで、ご来場の方々へどちらからいらっしゃったかをお聞きしました。その結果が左の画像なのですが、予想以上に県外の方が多く驚きました。感覚的にですが、盛岡の方とそれ以外の方が同数くらいではないでしょうか。

県外では宮城や首都圏からお越しの方が多く、シールが貼り切れない方が多く、シールが貼られていない方が多く、三重三重に貼られています。中部や近畿からも大勢お越しいただき、遠くは海外からも、南は沖縄、広島、松江、北は北海道からも大勢お越しいただいています。この中の何人かは私も存じ上げている人で、ベアレンのこのイベントを目的にいらっしゃっています。本当にありがたいことです。ベアレンのミッションの一つは、地域に誇れるブランドとなり、全国から多くの方々へベアレンを積極的に拡販し、来るようになり、「コミュニケーションを通して地域の活性化に寄与する

というものがありません。その一片がこのイベントで垣間見られたのではと感じています。今は流通も発達し、日本全国の多くの地域へ翌日に商品をお届けすることが出来ます。出来立てのベアレンビールが翌日には東京で飲めるのです。しかし、わざわざ新幹線に乗って宿をとって盛岡にビールを飲みに来てくれるのです。そこにこのクラフトビールというものの良さが詰まっているように感じます。「ビールはビール工場の煙突の見えるところで飲む」「ドイツの諺と聞いています。保存性に課題があり、出来立てがおいしいビールは元来飲むところで造られてきて、そのため地域ごとの特色が出て地方文化に大きな影響を与えてきました。これからのクラフトビールもそこあるべきではと思っています。そのためには、このオリジナルの味わいを地域の方々を育てて「ミニミニニブイ」の中で楽しみ文化と呼べるものまで醸成させていく事が大事だと思っています。ベアレンが進むこの道筋に勇気をもたらした三日間でした。ベアレンはこれからも岩手を元気にするブランドを目指してまいります。

BAEREN

ベアレンニュース2023年10月号 No.216

編集：眞田 洋一

〒020-0061 岩手県盛岡市北山1丁目3-31

ベアレン醸造所

## リレーエッセイ

菅原 聡子 | 総務部

皆さまこんにちは。4年ぶりに順番がまわりました。業務内容の一つに採用関係がありまして、学生さんや中途入社する方のファーストコンタクトになることが多い……というわけです(前号をご覧ください。できればと思えます)。私も映画は好きで、前回は007に触れました。推しのDクレイグ演じるボンドキ後は「E」でした。か、ちよつと7作目を観たところ。今回は1200メートルの断崖からバイクもろとも飛び降りる荒唐なアクションをトムは30年近くも、スタントマンに頼らないスタイルな姿に毎回驚かされます。話は変わり、このBAEREN NEWSにはお客様から投稿いただく『わたしとベアレン』があります。皆さまの温かな想いの詰まったコーナーが毎回とても楽しみです。ですが、私も入社当時をちよつと思ひ返してみたくなりま

した。ベアレンとの最初の出会いにはドイツ人マイスター……でした。実はベアレン醸造所ができる前からの知り合いで、シンガポールからやって来たばかりの彼と奥さんのSandraへ日本語を教えるボランティアをお願いされたことがきっかけでした。Sandraは熱心でしたが「Noはどこか上の空……(笑)今思えば新しく始めるビール工場のことです。頭がいつぼいだったのだらう。そのような縁もあり、現在にいたります。ビール職人の彼に褒めてもらえれば嬉しいのですが、これから30年40年と、ベアレン醸造所がずっと歴史を紡いでいくことができたらと思えます。屋外で飲むビールはさらさらうまい。来月はあらゆることに心血を注ぐ中ノ橋のファイター、シンディへつなぎます。



## 今月の新製品

都鳥 勇介 | 総務部

採れたてのフレッシュホップをふんだんに使用した新商品「ベアレン フレッシュホップラガー」のご紹介です！フレッシュホップとは、収穫後、熱乾燥などの加工をする前の鮮度や香りが失われていない生ホップのことです。

「ベアレン フレッシュホップラガー」には、しずくしいホップチャレンジさんが栽培した栗石産のフレッシュホップを使用しています。摘みだての新鮮なホップ由来のフレッシュな香りが特徴で、みずみずしく軽やかな飲み口のラガービールに仕上がっています！一年の中でこの時期にしか味わえない特別な一本です！ぜひご賞味ください！



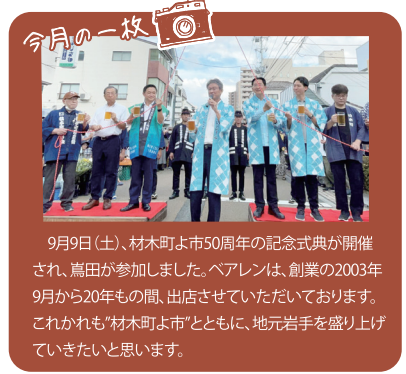
## 編集後記

都鳥 勇介 | 総務部

残暑も和らぎ、岩手もようやく秋めいてきましたね。さて、秋といえば……読書の秋「スポーツの秋」芸術の秋「などさまざまありますがやっぱり私は「食欲の秋」！美味しい旬の味覚とベアレンビールで、今年も食欲の秋を満喫したいと思えます！



各アカウント一覧はこちら↓



9月9日(土)、材木町市50周年の記念式典が開催され、眞田が参加しました。ベアレンは、創業の2003年9月から20年もの間、出店させていただいております。これかれも「材木町市」とともに、地元岩手を盛り上げていきたいと思えます。

# オクトーバーフェスト2023

山本 智也 | 営業部直販課



こんにちは！オクトーバーフェスト担当の山本です！毎日晴れてよかったですー！（一瞬降ったけどドラマチックな晴れ方したから良しとして）ベアレンオクトーバーフェスト2023にお越しいただきました皆さま、ありがとうございました。たくさんおしゃべりしました。たくさんおしゃべりできました。皆さま、ありがとうございます。また、今回はタイミング合わずに参加できなかった皆さま、次回お会いできることを楽しみにしています。

20周年を迎えたベアレン北山工場で多くのお客さまと過ごし、楽しみや感動を分かち合うことができた熱い3日間でした！ご来場された皆さま、スタッフの仲間たち、応援してくれる家族、関わっていただけるすべての人に感謝しています。今回迎えた4年ぶり完全復活のオクトーバーフェスト、なにか完全復活かというところ：ジョッキ付きチケット、ズンダダオーケストラの参戦と4年前の本来のオクトーバーフェストを再開できたことです！フードブースも各日5店舗、フル出店と一緒に盛り上げていただきありがとうございます。そして、今回は会場内をジョッキデザインのお酒で飾りつけ、一感を出せたことにより一層、会場やお客さま同士の間が生まれたと感じました。お子さまも楽しめるキッズブースは、遊び場も多くて最後まで楽しめたかなと思います！ご協力いただきましたボードゲーム倶楽部さん、大野ドリームさん（モルック体験）、花の館さん（ジャック・オー・ランタン作り）、たくさんのご協力をありがとうございました。ステージも熱々でしたね！初ス

テージで堂々と盛り上げたベアレンアルバイトスタッフのお二人や2日間も会場を魅了し湧かせたジャミーラオリエンタルダンスカンパニーの皆さま、宮古からアニソンを通し岩手を元気付け、会場を沸かせたミヤクラさん、毎回参加いただき会場をアロハクにしてしまうナビカケヒヴァヒヴァの皆さまやウクレレと言えは「鈴木トオル&遠藤ヒロシ」アンコールでも大盛り上がり！北山工場長率いる吉田ファミリィは2回目の出場にして熱狂的なファンが前列に集まる！そして、おかえりなさいズンダダオーケストラの皆さま！ズンダダ無くてはビアフェストなしと言っても過言ではないほど2日目はズンダダさんの日でした！みんなが待っていました！会場を沸かせ、走り狂い、感動を共有しましたね！熱い思いで参加いただきましたズンダダオーケストラの皆さまに感謝いたします！

新幹線を使った出張がいつになく楽しみななつたのは、ベアレンと出会ってからだ。盛岡駅に到着後、時間に余裕がある時はベアレン駅前店に寄る。一杯目はクラシクから始め、シユバルツを経由し、限定ビールに手を出す。仕事柄出張は土日が多く、次の日は月曜日だが、ベアレンは不思議と次の日に残らない。岩手に遊びに来た人がいれば、ほぼ必ずと言っていいほどベアレンのお店に連れていく。「どっだ、いいお店だろう」と、単なる客の立場なのに自慢する瞬間がいつも楽しい。最近では繁盛しているのが、入れないことも増えたが、最良の店が流行っているのは嬉しい限り。これからも私のプライドを支えてくれる行きつけのお店として続けてほしい。

※引き続き、みなさまの投稿をお待ちしております！



応募QRコード

# レストラン便り

佐々木 裕人 | ビアフロントベアレン盛岡駅前



皆さん、こんにちは、こんばんは、おはようございます！ビアフロントベアレンの佐々木です。

盛岡駅前ビル1Fに待望の新店舗がオープンしました。どんなお店か気になりますよね？気になりますよね？なんと、あの「よ市」で人気となった「町屋ラーメン」をベースとしたお店です！あまりにも人気で食べられなかった人も多いはず！その「町屋ラーメン」を主軸とし、定番のベアレンビールを4種類ほど揃えた店舗となっております。「どんな感じなの？」と気になる方もいるでしょう。

そんな皆さんは、「サクッとベアレン」といった感じを想像して頂ければ、きっとイメージしやすいです。そしてベアレンといえば・・・そうです、地産地消、県産食材です。もちろんビアフロントベアレンも県産食材をベースにメニューを展開しております。その中でもこだわりの「インパクト大メンマ」で有名な、あの大門さんとベアレンで、共同で作りました「おつまみメンマ」がとにかくおいしいです。とまらない！そして、お馴染みのポールスターファーム 峠館さんがビアフロント限定で作ってくれた「カルパス」、このカルパスが絶品です。「あつ、うまつ」と思わず口にしちゃうほど。塩気と肉感のバランスがとて絶妙です。この「大門メンマ」と「ポールスターカルパス」は是非とも食べてもらいたいです。

えっ？ラーメン？それは来月からのお楽しみということで、皆さまのご来店をお待ちしております！

# 笑熊会活動報告

中山 佐智子 | 製造部 霰石工場



今回初めて、霰石RUNイベントにBBO担当として参加した、笑熊の中山です。9月初旬の開催でしたが、猛暑日一步手前の気温の中、過去最多の参加人数という事で、準備担当の私も気合いが入りました。コースは例年通り、北山工場から霰石工場までの往復約30キロと、半分の距離を走るハーフと2コースあります。朝8時半、先ずは中間地点の霰石工場まで皆さんそれぞれ自分たちのペースで走って行きました。走っている様子などは、「ZINGグループで共有している」ので、その様子も見つつ、早い人では10時半前には、

霰石工場に到着していました。ハーフで参加の方たちはここから合流し、折り返してゴールの北山まで走ります。中間地点の霰石工場前で記念写真を撮り、さあ、残り半分！言うのは簡単ですが、コースの中にはきつい登坂もあるので、参加している方たちは、たぶんものすごく体力を使ったのではないかと思います。12時頃から続々とゴールする皆さんの顔は、一樣に走り切ったという、達成感溢れる表情でした。今年も無事、怪我をすする人も無く、暑い中での、霰石RUNでしたが、終わった後のBBOともちろん皆さん大好きなベアレンビールで疲れも吹き飛んだ！(中)にはしばらく疲れが残っている人がいたかも)来年は、ハーフに参加してみようかな、、、と思った、楽しい一日でした。追伸…きゅり先生、今年も走られた方々へのサポーターありがとうございました！

